

「患者調査」結果の概要

1 推計入院患者数は減少、推計外来患者数は増加

(報告書 P7・8・9 表 1・図 2・図 3)

- * 都民の推計入院患者数は、9万4千人となっている。
- * 都民の推計外来患者数は、81万1千人となっている。
- * 年齢階級別にみると、65歳以上の推計入院患者数は6万8千人で、前回（平成29年）より減少した。
65歳以上の推計外来患者数は34万6千人で、横ばいとなっている。

施設の種類の年齢階級別にみた都民の推計患者数

(単位:千人)

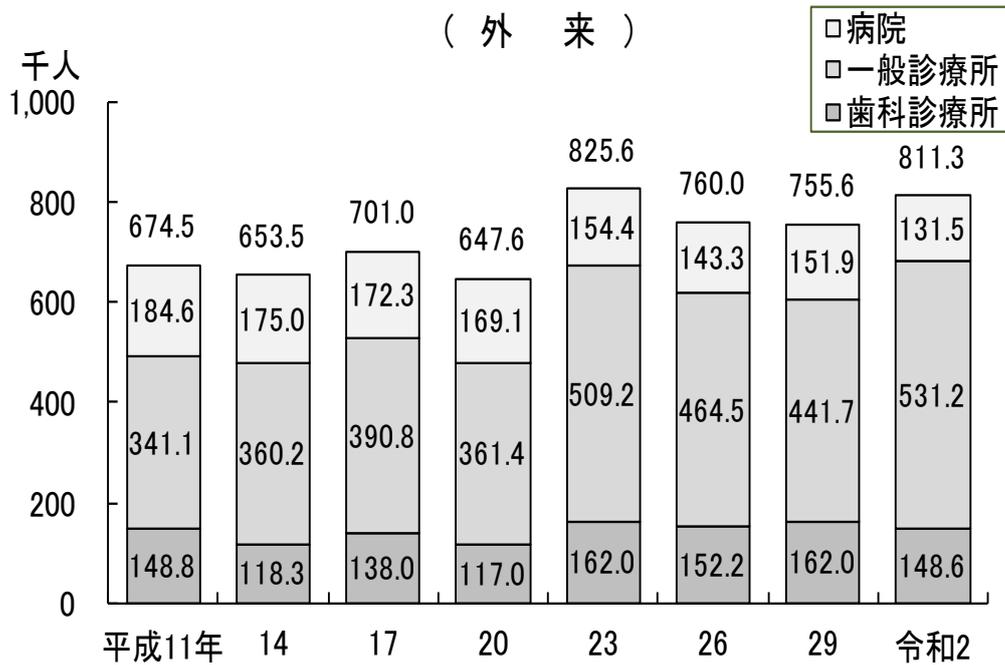
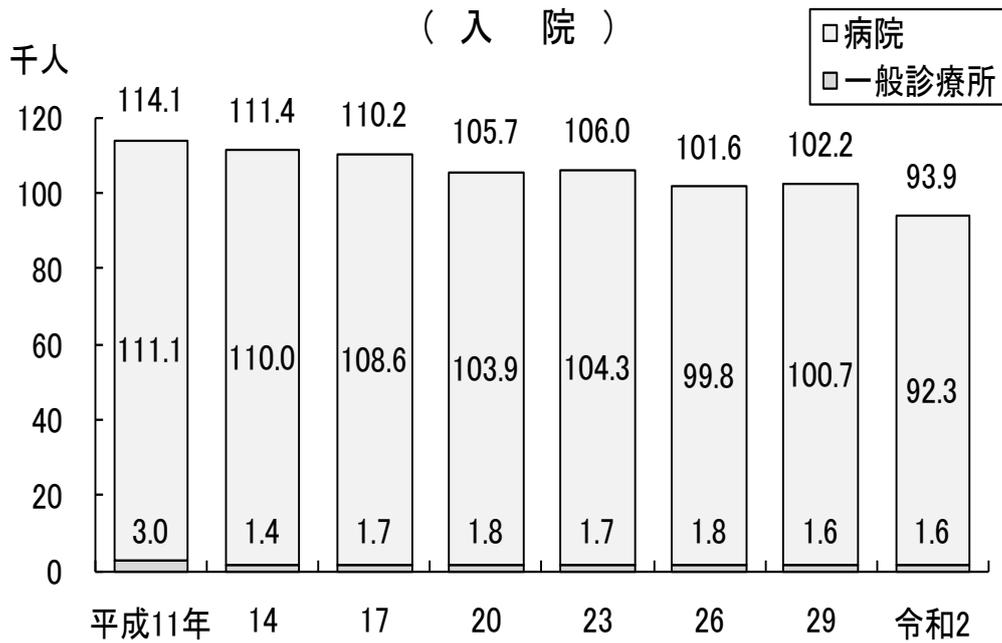
令和2年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総 数	93.9 (102.2)	92.3 (100.7)	1.6 (1.6)	811.3 (755.6)	131.5 (151.9)	531.2 (441.7)	148.6 (162.0)
男	43.5	42.9	0.6	334.5	62.0	214.2	58.3
女	50.5	49.4	1.1	476.9	69.6	317.0	90.3
0 歳	1.0	1.0	0.0	10.5	0.7	9.7	-
1 ～ 4 歳	0.4	0.4	-	38.6	1.4	35.1	2.0
5 ～ 9 歳	0.3	0.3	-	31.1	1.4	23.1	6.6
10 ～ 14 歳	0.5	0.5	-	20.3	1.3	15.3	3.7
15 ～ 19 歳	0.5	0.5	-	14.3	1.3	8.0	5.0
20 ～ 24 歳	0.8	0.7	0.1	21.8	1.7	14.7	5.4
25 ～ 29 歳	1.0	1.0	0.0	27.1	2.6	18.0	6.6
30 ～ 34 歳	1.6	1.6	0.0	32.4	3.4	21.2	7.8
35 ～ 39 歳	1.8	1.8	0.0	33.0	4.4	22.8	5.8
40 ～ 44 歳	2.0	2.0	0.0	41.0	5.5	26.1	9.3
45 ～ 49 歳	2.9	2.9	-	48.9	7.4	31.6	9.9
50 ～ 54 歳	3.7	3.6	0.0	48.7	7.9	28.4	12.4
55 ～ 59 歳	4.6	4.5	0.0	48.5	9.0	30.1	9.4
60 ～ 64 歳	5.1	5.1	-	48.7	9.4	29.6	9.7
65 ～ 69 歳	7.0	6.9	0.1	59.1	11.7	36.7	10.6
70 ～ 74 歳	10.3	10.3	0.0	89.1	18.4	54.9	15.7
75 ～ 79 歳	12.0	11.7	0.3	79.7	17.2	51.5	11.1
80 ～ 84 歳	13.6	13.4	0.2	62.4	14.5	38.5	9.4
85 歳 以 上	24.7	24.0	0.7	55.3	12.2	34.9	8.2
不 詳	0.1	0.1	-	0.8	0.1	0.7	-
(再 掲)							
65 歳 以 上	67.7	66.3	1.3	345.7	74.0	216.6	55.1
70 歳 以 上	60.6	59.4	1.2	286.6	62.3	179.9	44.4
75 歳 以 上	50.3	49.1	1.2	197.5	43.9	124.9	28.7

注1 歯科診療所は外来のみである。

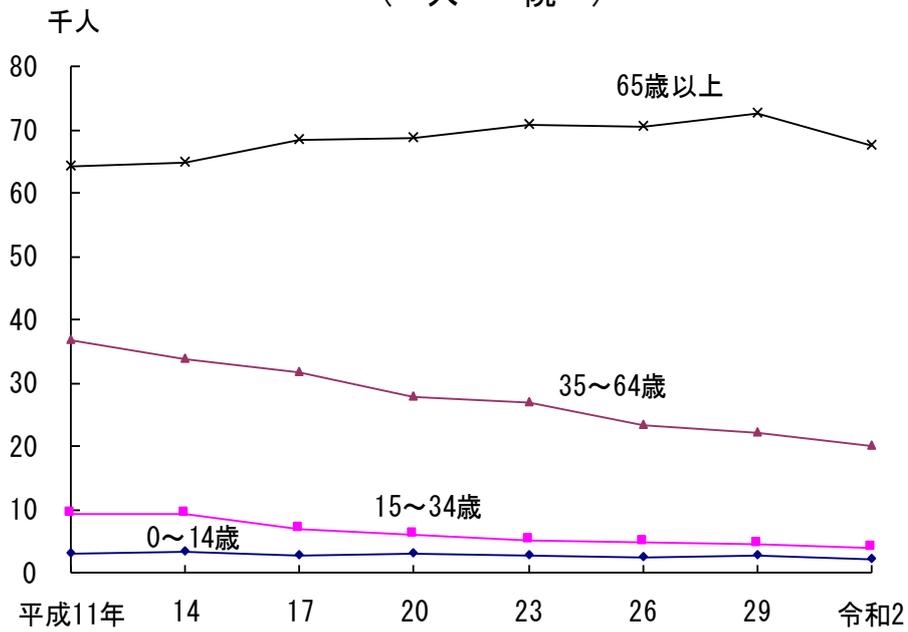
2 ()は平成29年の数値である。

施設の種別別にみた都民の推計患者数の年次推移

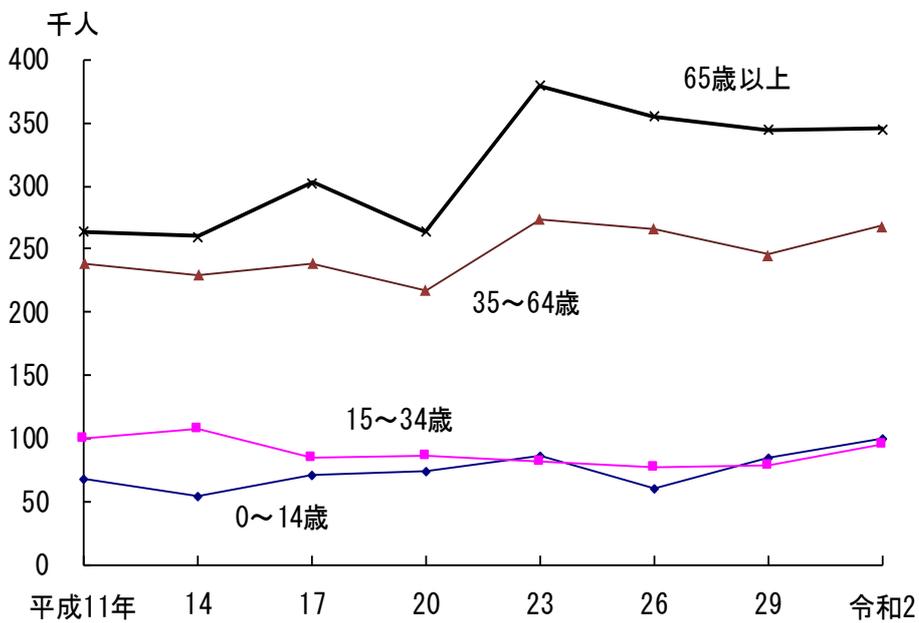


年齢階級別にみた都民の推計患者数の年次推移

(入 院)



(外 来)



2 傷病分類別では、推計入院患者は「精神及び行動の障害」(18.5%)、「循環器系の疾患」(17.8%)、推計外来患者は「消化器系の疾患」(19.8%)の割合が高くなっている。

(報告書 P11 図 4)

* 都民の推計入院患者を傷病分類別にみると、精神及び行動の障害 (18.5%)、循環器系の疾患 (17.8%)、新生物<腫瘍> (11.0%) となっている。

* 都民の推計外来患者を傷病分類別にみると、消化器系の疾患 (19.8%)、筋骨格系及び結合組織の疾患 (グラフ表記は「筋骨格系」) (14.1%)、健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 (グラフ表記は「保健サービス等」) (13.8%) となっている。

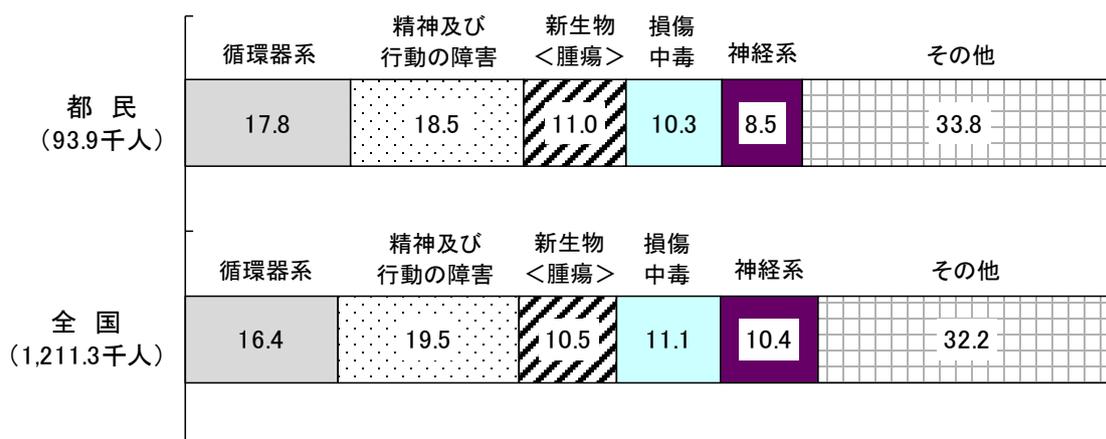
注：傷病分類の詳細については、報告書 P4、P5 を参照

傷病分類別にみた都民と全国の推計患者数の構成割合

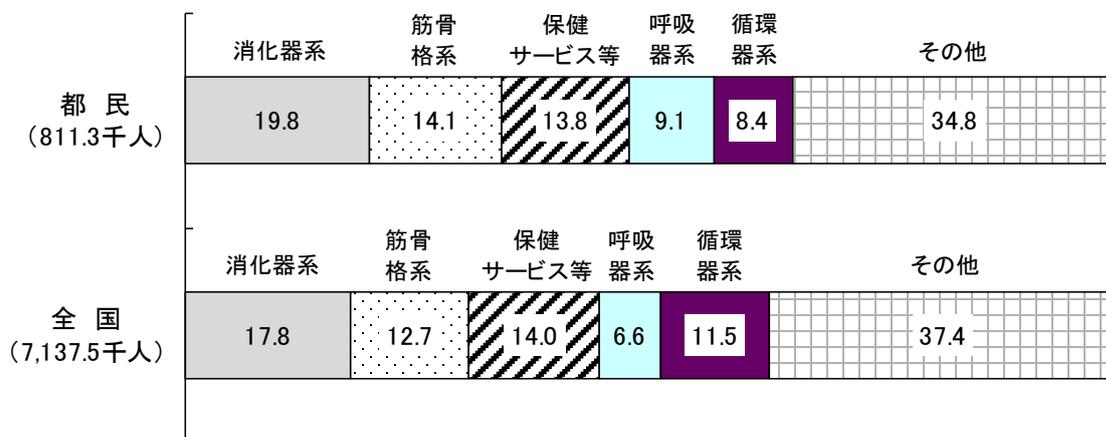
(単位：%)

令和 2 年 10 月

(入 院)



(外 来)



注：()内は推計患者数である。

3 在宅医療を受けた推計外来患者数は大きく減少

(報告書 P17 表 5・図 9)

- * 調査日に在宅医療を受けた推計外来患者数は、5千人となっている。
- * 施設の種類の別みると、病院2千人(42.7%)、一般診療所3千人(57.3%)となっている。
- * 在宅医療の種類の別みると、往診1千人(31.4%)、訪問診療3千人(67.5%)、医師・歯科医師以外の訪問は千人未満(1.0%)となっている。
- * 在宅医療を受けた推計外来患者数は、前々回(平成26年)及び前回(平成29年)では増加していたが、今回(令和2年)は大きく減少した。

施設の種類の別・在宅医療の種類の別みた都民の在宅医療を受けた推計外来患者数

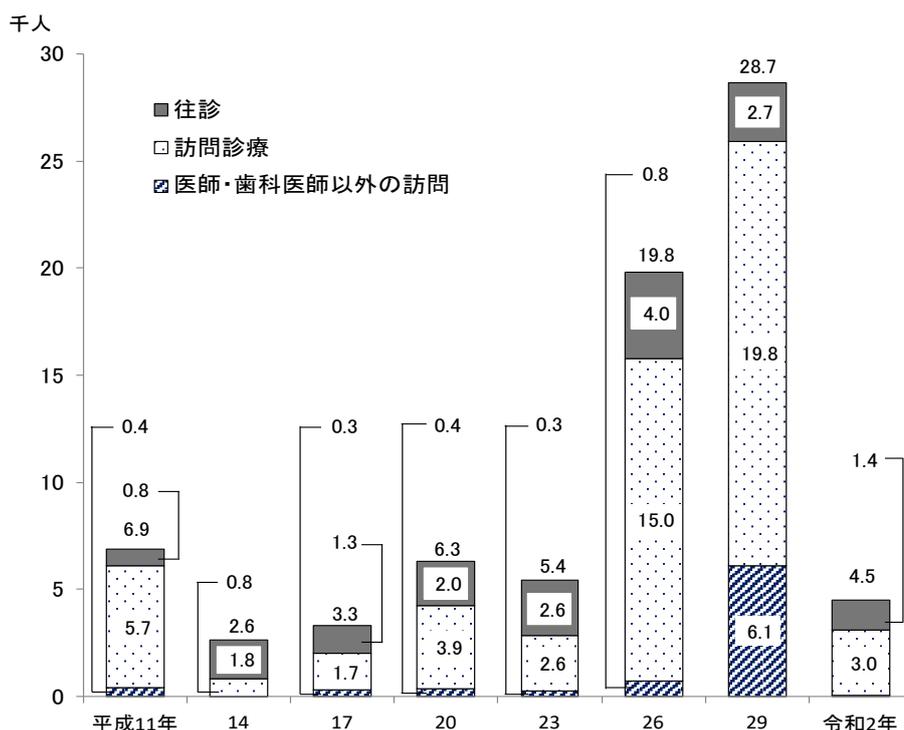
(単位:千人)

令和2年10月

推計外来患者数総数	総数				病院				一般診療所				歯科診療所		
	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師以外の訪問	在宅医療	訪問診療	歯科医師以外の訪問
811.3	4.5	1.4	3.0	0.0	1.9	0.2	1.7	0.0	2.6	1.2	1.4	-	-	-	-

- 注1 「往診」とは、患家(介護老人保健施設等を含む。以下同じ。)の求めにより必要に応じて患家に赴いて診療するものをいう。
- 注2 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患家に赴いて診療を行うものをいう。
- 注3 「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

都民の在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移



4 都民の入院受療率は全国より低く、外来受療率は全国より高い

(報告書 P18・19 表 6・図 10・図 11、P279 統計表第 44 表、P375 参考第 7 表)

- * 都民の入院受療率は「669」で、全国「960」より低い。
- * 都民の外来受療率は「5,776」で、全国「5,658」より高い。

都民の受療率（人口 10 万対）

令和 2 年 10 月

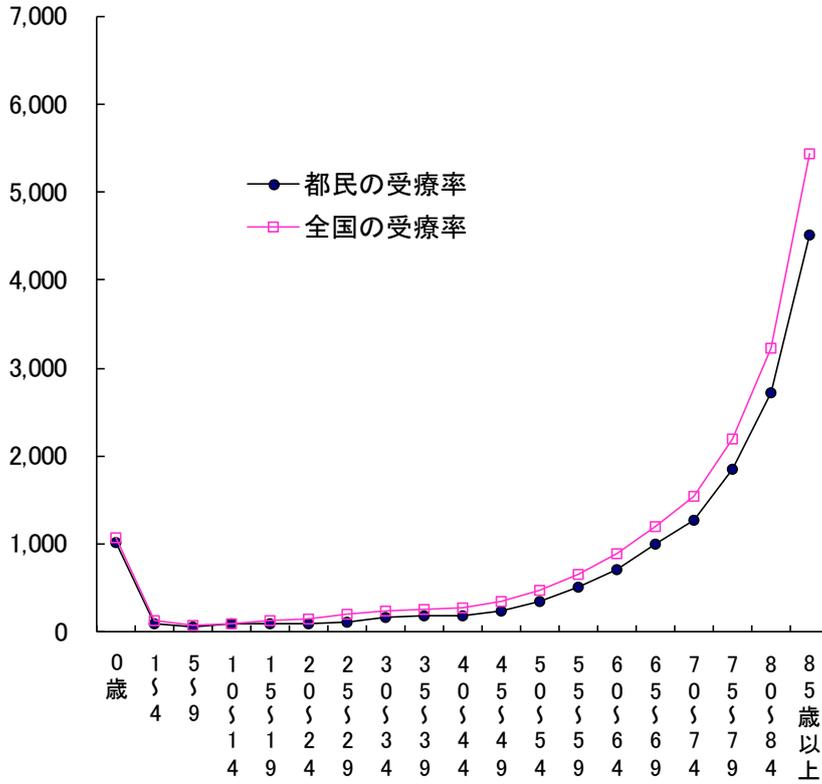
	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
都民	669 (744)	630 (688)	706 (798)	5,776 (5,498)	4,849 (4,634)	6,670 (6,337)
全国	960 (1,036)	910 (972)	1,007 (1,096)	5,658 (5,675)	4,971 (4,953)	6,308 (6,360)

注: () は平成 29 年の数値である。

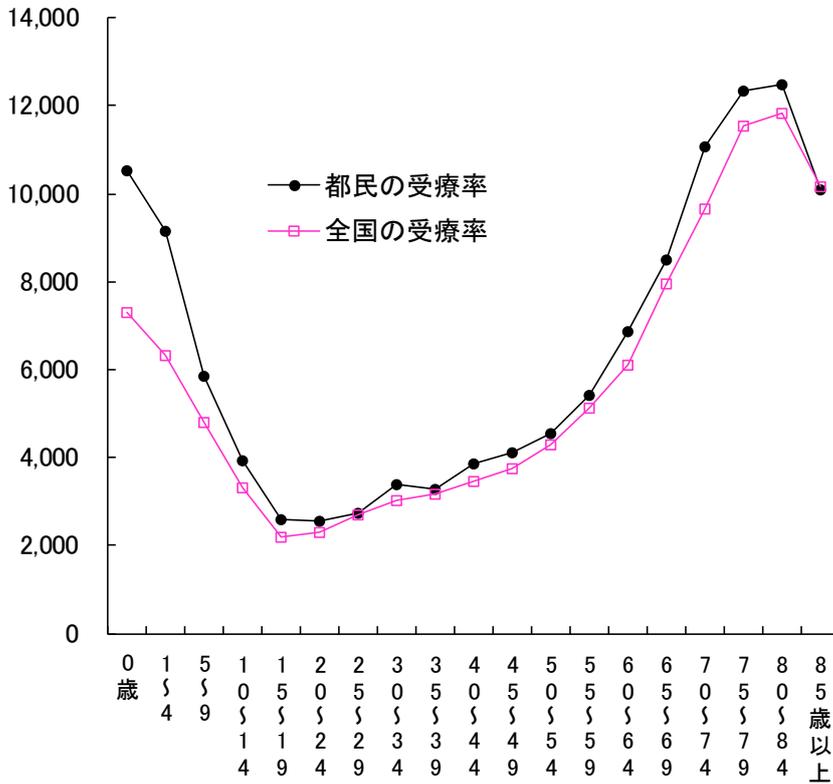
- ※ 受療率とは
推計患者数を人口で除して人口 10 万対で表した数
受療率（人口 10 万対）＝推計患者数／国勢調査人口×100,000

年齢階級別にみた都民と全国の受療率（人口10万対）の比較

（ 入 院 ）



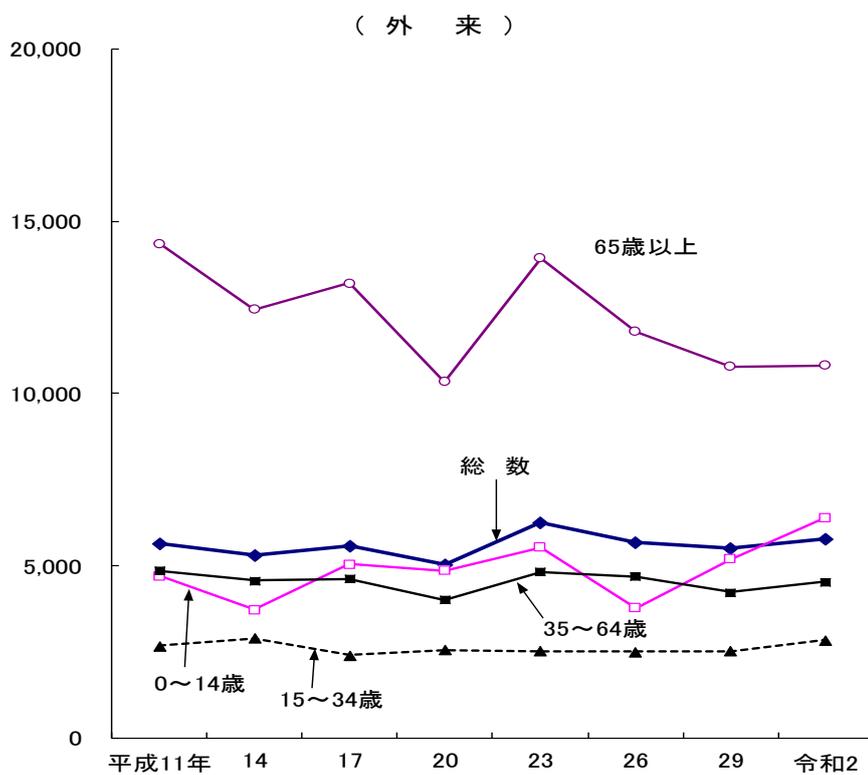
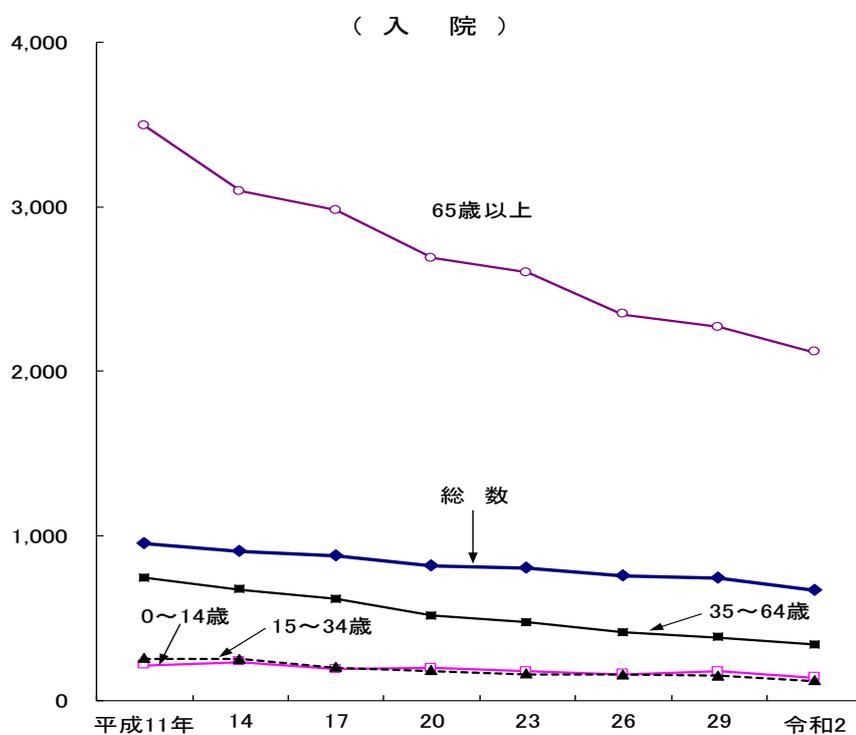
（ 外 来 ）



* 年齢階級別にみると、入院・外来ともに65歳以上が最も高く、入院が2,118（全国2,512）、外来が10,821（全国10,044）となっている。

* 入院の総数は、ゆるやかな減少傾向が継続している。

年齢階級別にみた都民の受療率（人口10万対）の年次推移



5 流出患者割合は、入院が全国を上回り、流入患者割合は、入院・外来ともに全国を上回る

(報告書 P21 図 13・図 14)

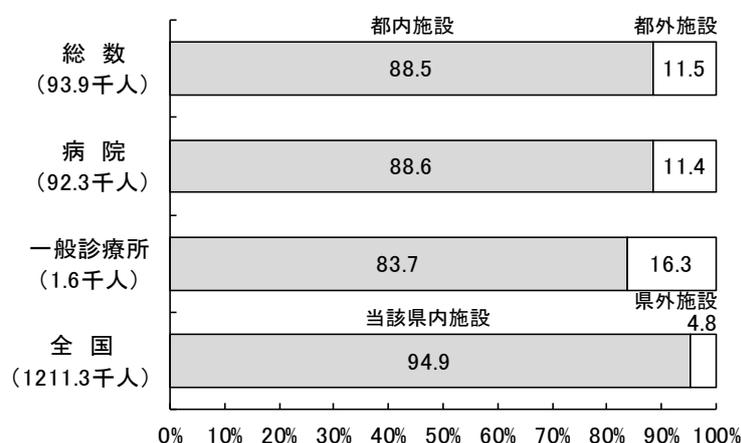
* 都民の他県施設受療割合（いわゆる「流出患者」割合）は、入院 11.5%、外来 2.7%で、全国（入院 4.8%、外来 2.4%）と比較すると、入院では、都民の流出患者割合が全国を上回っている。外来では、都民の流出患者割合は、全国と同程度になっている。

* 都民以外の都内施設受療割合（いわゆる「流入患者」割合）は、入院 13.1%、外来 8.1%で、全国（入院 4.8%、外来 2.4%）と比較すると、入院・外来ともに都内施設の流入患者割合が全国を上回っている。

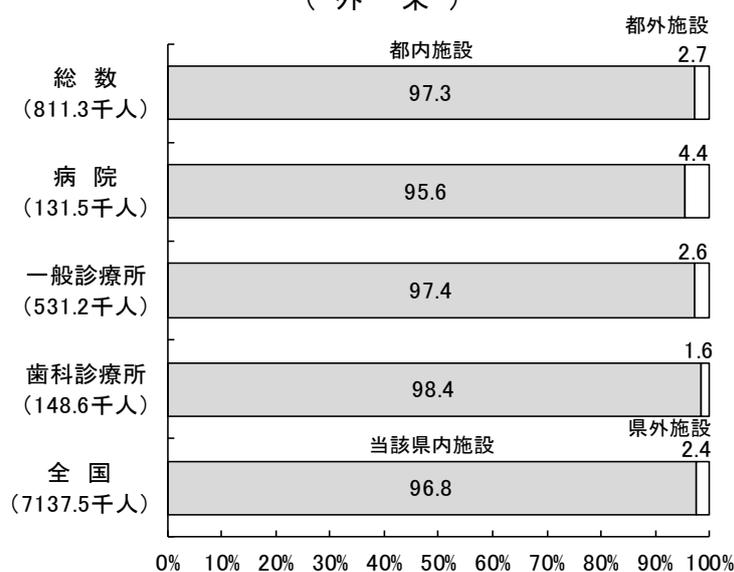
都民の都内—都外受療割合

令和2年10月

(入 院)



(外 来)

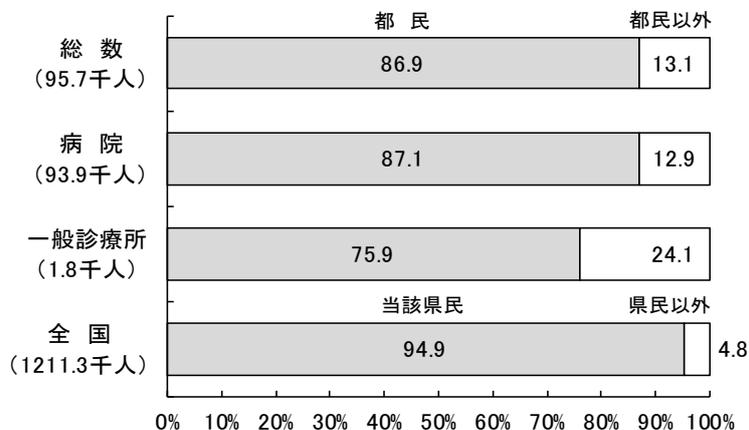


注:()内は推計患者数である。

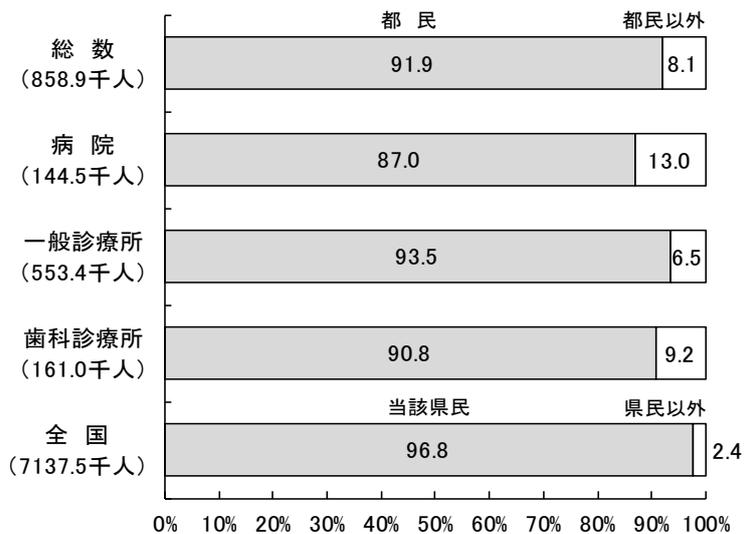
都内施設における都民—都民以外の受療割合

令和2年10月

(入 院)



(外 来)



注:()内は推計患者数である。

6 15～64 歳は、入院・外来ともに流入が流出を上回る

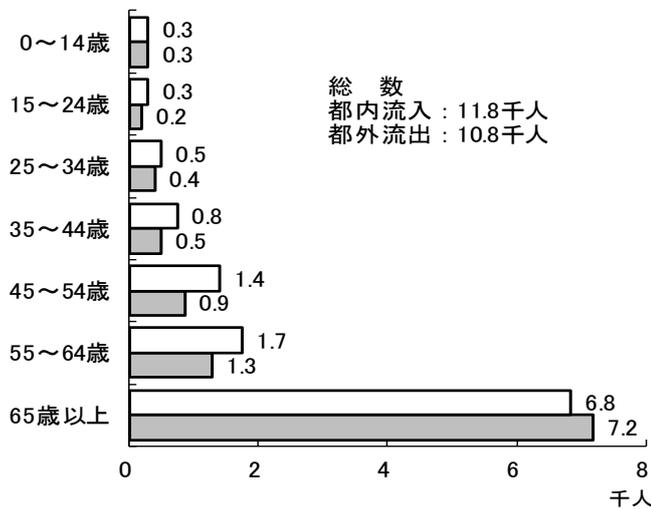
(報告書 P22・23 図 15・図 16)

- * 流入・流出の推計患者数を年齢階級別にみると、入院では、0～14 歳及び 65 歳以上を除き、流入が流出を上回っている。
- * 外来では、0～14 歳を除き、流入が流出を上回っている。
- * 傷病分類別にみると、入院では、「精神及び行動の障害」、「神経系の疾患」及び「損傷、中毒及びその他の外因の影響」で流出が流入を上回っている。外来では、「腎尿路生殖器系の疾患」を除き、流入が流出を上回っている。

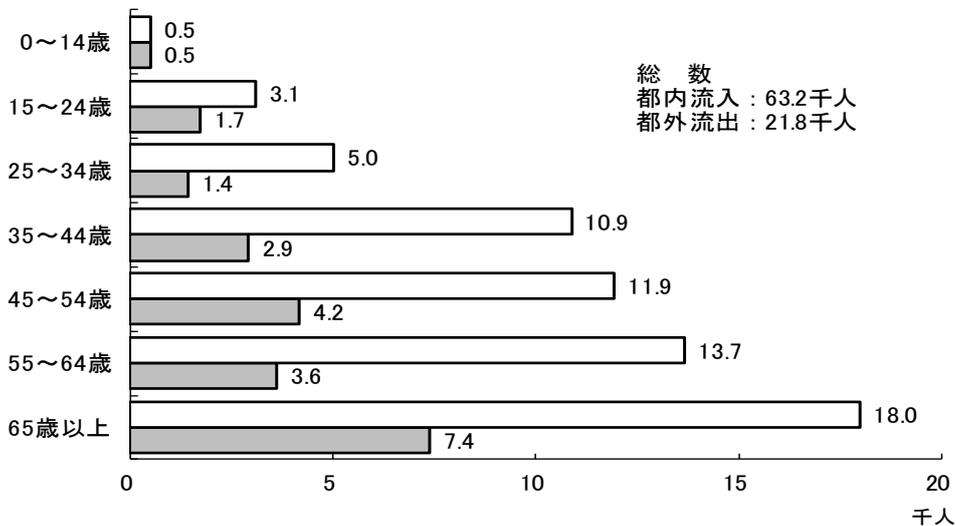
年齢階級別にみた都内流入—都外流出の推計患者数

令和2年10月

(入 院)



(外 来)

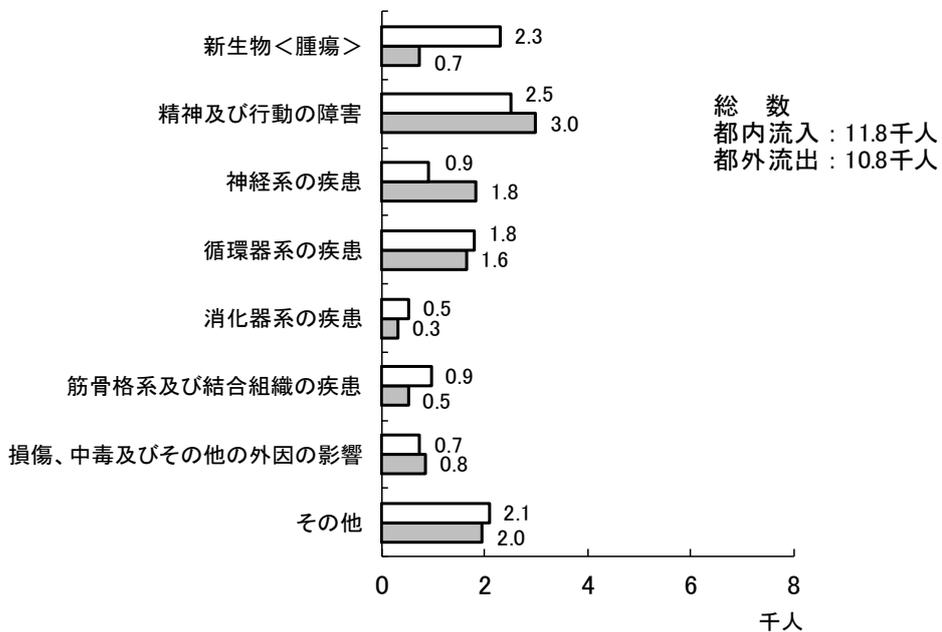


□ 都内施設で受療した都民以外の者(都内流入) ■ 都外施設で受療した都民(都外流出)

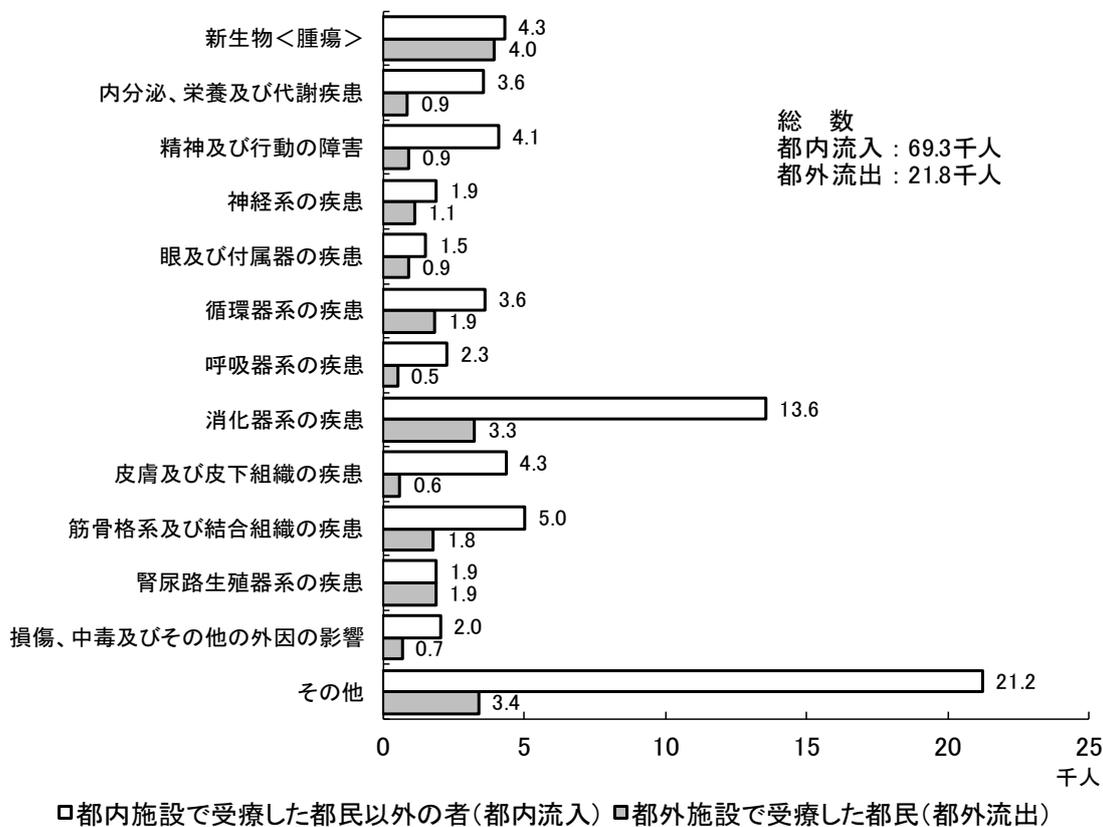
傷病分類別にみた都内流入一都外流出の推計患者数

令和2年10月

(入 院)



(外 来)



7 患者が居住する二次医療圏内の病院に入院した割合が最も高いのは、 区南部医療圏

(報告書 P24 図 17)

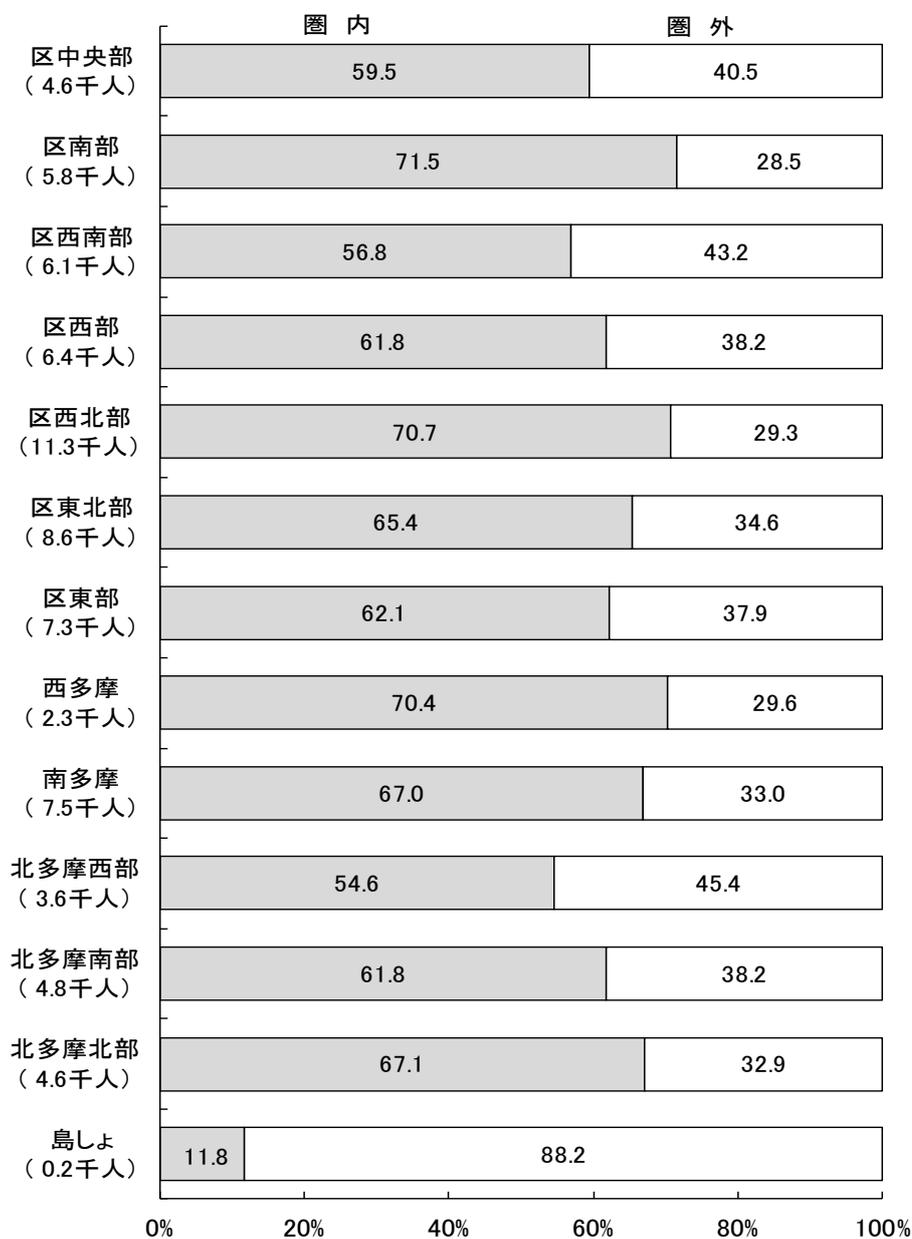
二次医療圏ごとの推計患者数のうち、患者が自己の居住地圏内の病院に入院した割合は、

- ① 区南部 71.5% (平成 29 年調査 3 位)
- ② 区西北部 70.7% (平成 29 年調査 2 位)
- ③ 西多摩 70.4% (平成 29 年調査 1 位) の順となっている。

二次医療圏別にみた患者の居住地圏内の病院の受療割合

令和 2 年 10 月

(入 院 (精神・結核病床を除く))



注: ()内は、二次医療圏別推計入院患者数(精神・結核を除くその他の病床)である。

<参考> 二次医療圏

区中央部	千代田区 中央区 港区 文京区 台東区
区南部	品川区 大田区
区西南部	渋谷区 目黒区 世田谷区
区西部	新宿区 中野区 杉並区
区西北部	北区 豊島区 板橋区 練馬区
区東北部	荒川区 足立区 葛飾区
区東部	墨田区 江東区 江戸川区

西多摩	福生市 羽村市 あきる野市 青梅市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町
南多摩	八王子市 日野市 多摩市 稲城市 町田市

北多摩西部	立川市 国分寺市 国立市 昭島市 東大和市 武蔵村山市
北多摩南部	武蔵野市 小金井市 三鷹市 調布市 狛江市 府中市
北多摩北部	西東京市 清瀬市 東久留米市 東村山市 小平市

島しょ	大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村
-----	---